

# 学生の皆さんへ

学生部長 齊藤 泰治

早稲田大学では、学生生活調査を実施しています。1957年から随時、そして2001年からは毎年実施しているこの調査では、多種多様な早大生の皆さんの学修状況や進路、課外活動の現状などを捉え、その結果を基に、全ての早大生の学生生活がより一層充実するよう、大学全体で活用していくことを目的としています。

36回目に当たる今年度も、1万人の学部学生、2,000人の大学院学生、そして全ての専門職大学院学生にアンケート回答のお願いをし、多くの皆さんに回答いただきました。今年度の回答率は36.4%であり、回答率は年々上昇している傾向にあります。次年度以降も継続して多くの皆さんに回答してもらえよう、取り組む予定です。ご協力いただいた皆さんには、この場を借りてお礼を申し上げます。

今年度の調査では、従来調査項目に加えて、昨今の政府による給付型奨学金の創設に向けた議論などで注目される奨学金の受給状況、また、就職活動と密接に関連してきた、インターンシップへの参加状況など社会動向に即したトピック項目を設けました。さらに、学生生活について、キャンパスの違いにフォーカスすることにしました。その結果、本報告書からは、同じ大学でありながらも、学生の日々の生活が実に多様であることが明らかになりました。

学生の皆さんにとっても興味深い結果が見られますので、ぜひご一読ください。

それらに加え、今年度の調査では、実験的に「早大生になって良かったと思うのはどんなときか?」という問いを設けました。早大生として生活する中で皆さんがどんな瞬間に早大生となって良かったと実感しているのか、興味深い回答が得られています。

最後になりますが、2016年度に引き続き、本調査の設問作成・回答集計・報告書作成など、嶋崎尚子文学学術院教授に全面的にご協力・監修いただきました。また、大学院文学研究科博士後期課程の笠原良太さんに「高度スチューデントジョブ」としてデータ集計に尽力いただきました。快く引き受けていただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。

2017年10月23日

## 調査デザイン

学生生活調査は、正規課程の全学生を対象に毎年実施している調査です。学生各人が4年に1度対象者となるよう設計されています。2016年度からは、調査項目を毎年継続する基本調査項目と4年に1度尋ねるトピック項目とに分けた設計に変更しました。これに合わせて2017年度報告書からは、基本項目とトピック項目別に結果を記載します。その際の分析軸は、基本的には文系・理系と学年の組み合わせとし、2017年度はトピック項目については「日常的に利用しているキャンパス」を用います。